

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
アジア動物専門学校	平成19年3月15日	佐山 百合子	〒315-0015 茨城県石岡市貝地2丁目3508番地 (電話) 0299-35-5380																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人佐山学園	平成19年3月15日	佐山 等	〒315-0015 茨城県石岡市貝地2丁目3508番地 (電話) 0299-35-5380																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																														
文化・教養	文化教養専門課程	動物総合学科(ベテリナリーテクニシャンコース)	平成21年文部科学省 告示第21号	—																														
学科の目的	建学の精神に基づき、世界に通用する技術力、高い知識に裏付けられた応用力、動物愛護の精神に溢れた豊かな心、動物と共生する喜びと感謝の気持ちを育成し、真の動物との共生の実現に寄与できる心豊かなスペシャリストを育成することを目的とする。																																	
認定年月日	平成 26年 3月 31日																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験 実技																												
2年	昼間	2400時間	1155時間	0時間	1245時間	0時間 0時間																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
160人(40人)	111人(35人)	0人	6人	3人	9人																													
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う																													
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月24日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■春季:3月25日～4月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	学則第9条に定める成績評価に基づいて、所定の単位を修得した者																													
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 個別面談、個別指導、保護者面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 動物福祉推進委員会、動物介在活動、校外清掃活動																													
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) フレンドアニマルメディカルセンター、玉戸ペットクリニック、すげの動物病院、どうぶつ病院シン・ペット、ながおか動物病院、みのり動物病院、アイリス動物病院、みのり動物病院、かざま動物病院、ペットアミ等の動物病院、ペットショップ ■就職指導内容 就職ガイダンス、企業セミナー、全国ペット協会主催合同就職説明会、就職個別面談、履歴書添削、面接指導、求人情報提供 ■卒業生数 : 11 人 ■就職希望者数 : 11 人 ■就職者数 : 11 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 29年度卒業者に関する 平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 無 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>動物看護師統一認定機構認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>NAVA動物看護師</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>NAVA動物介在福祉士</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>NAVATリマー3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>ICCKゃットキャットグルーマーB級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>JKCTリマーC級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 一般社団法人日本動物専門学校協会主催 第13回全国トリミングコンテスト ベーシックBクラス 前島奈緒子		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	10人	7人	NAVA動物看護師	③	10人	10人	NAVA動物介在福祉士	③	11人	11人	NAVATリマー3級	③	21人	21人	ICCKゃットキャットグルーマーB級	③	9人	9人	JKCTリマーC級	③	3人	1名
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																															
動物看護師統一認定機構認定動物看護師	③	10人	7人																															
NAVA動物看護師	③	10人	10人																															
NAVA動物介在福祉士	③	11人	11人																															
NAVATリマー3級	③	21人	21人																															
ICCKゃットキャットグルーマーB級	③	9人	9人																															
JKCTリマーC級	③	3人	1名																															
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成29年4月1日時点において、在学者35名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者32名(平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 体調不良・学習意欲喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談、保護者面談、三者面談、カウンセリングの実施			■中退率 8.6%																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 給付型奨学金制度、交通費等給付制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(給付実績: 無)																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																	
当該学科のホームページURL	http://www.aaa.ac.jp/VT.html																																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか「就職者数(関連分野)」は「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また「その他」の欄は「関連分野へのアルバイト者数や准学生

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める即戦力となる人材を育成するために、教育課程の編成において、業界関連企業や関連団体等と連携し、業界の意見や要望、アドバイス等を反映した実践的なカリキュラム編成を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

ペット関連企業・業界団体役員、学校長、教職員により教育課程編成委員会を構成し、学校組織から独立した委員会として位置付け、広い見識から教育課程について議論できる組織とする。委員会から受けた助言・提言を学内の職員会議で協議した上で、本学の教育課程の編成に反映させるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
皆川 武久	有限会社皆川獣医科医院 代表取締役	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
小島 章義	一般社団法人全国ペット協会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	①
佐山 百合子(委員長)	アジア動物専門学校 校長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	
永井 正三	アジア動物専門学校 副校長	平成29年10月1日～平成31年3月31日(2年)	
安達 正雄	アジア動物専門学校 事務局長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:2月～3月、8月～10月

(開催日時)

平成28年度第1回 平成28年9月8日 16:00～17:00

平成28年度第2回 平成29年2月23日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、ペット業界は専門分野に特化するのではなく、動物に関する幅広い知識と技術を兼ね備えた人材を求めているという提言を受け、平成31年度からカリキュラムを見直すこととした。平成30年度の職員会議において見直しを行い、委員会の意見を反映させてカリキュラムを決定することとした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット関連企業と連携してトリミングサロン、ペットショップ、動物病院、観光牧場等で実習を行うことにより、業界の求める実践的なスキルやコミュニケーション力、ビジネスマナー等を習得した即戦力の人材を育成することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

ペット関連の連携企業施設においてコース毎に実践的な実習を行っている。学生は実習日に連携企業担当者の確認を受けた実習報告書作成し、半期ごとに学校所定の評価表に基づいて、実習責任者または実習指導担当者による評価を受けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習Ⅱ	年間約30犬種に及ぶモデル犬を実習することが可能、一人1～3頭を仕上げられることを目指し、ペットトリミングサロンにおいてトリミング業務全般について実習を通して学ぶ。	(株)デン・ケリー
動物疾病看護学Ⅰ	チーム獣医療の現場で必要な病名や診断名について学び、動物病院において治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に必要な知識を学ぶ。	アイ動物医療センター、アイ動物医療センターつくば、ペットクリニックモニー水戸、エム動物病院
動物健康管理学Ⅰ	日常の健康管理と適正飼育法を理解し、犬や猫以外の生態について学校以外の施設で実習を通して学ぶ。	グローバル・アニマルアクト、こもれび森のイバライド、かすみがう市水族館
動物人間関係学Ⅰ	動物が人間社会で果たしている役割や背景・歴史を学び、動物介在活動を通して動物と人間の関係について学ぶ。	ロイヤル本館・新館、陽だまり館、いろり端
動物行動学Ⅰ	イヌやネコの種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解し、ペットショップの仔犬のしつけ教室を通して仔犬のしつけについて学ぶ。	(株)コジマ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

アジア動物専門学校就業規則第45条(職員教育、研修)及び教育研修規定に基づき年間研修計画を策定している。計画的に各種競技会や研修会等に参加することにより教職員の技術向上、授業改善や学生指導力の向上を図ることを基本方針とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

アイ動物医療センターつくば高度動物医療・動物理学療法研修
日付:平成30年2月6日(火) 対象:ペテリナリーテクニシャンコース教員

②指導力の修得・向上のための研修等

茨城県犬猫殺処分ゼロを目指すシンポジウム
日付:平成29年9月24日(日) 対象:教職員

ペットとの共生推進シンポジウム
日付:平成29年11月19日(日) 対象:教職員

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

日本動物看護学会年次大会 対象:ペテリナリーテクニシャンコース教員

②指導力の修得・向上のための研修等

研究授業 対象:教職員
ペットとの共生推進協議会主催シンポジウム 対象:教職員
茨城県犬猫殺処分ゼロを目指すシンポジウム 対象:教職員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員の客観的な評価結果に基づき、評価項目の達成状況及び取組み状況を検証し、動物系専門学校としての本学の特色を踏まえ、改善しなければいけない課題や今後の取組みについては是正していくことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の提言を受けて、職員会議において今後の学校運営と教育活動等を改善していくことを基本とする。
平成29年度の委員会において、即戦力となる人材を育成するためには校外の施設において実践的な実習が欠かせないと提言を受けて職員会議で検討した結果、ペットスタイリストコースでは、(株)デン・ケリーのミスレイシーつくば店で1年次から美容実習を行うこととした。また、アニマルケアコースでは、もふもふふれあい動物園、Moff animal cafe、ダチヨウ王国など連携施設を増やし飼育実習を行うこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
皆川 武久	有限会社皆川獣医科医院 代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	企業等関係者
小島 章義	一般社団法人全国ペット協会 会長	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	業界関係者
原田 久美子	アジア動物専門学校 保護者代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	保護者
飯島 涼太	株式会社デン・ケリー 卒業生代表	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
平成30年8月公開

URL:<http://www.aaa.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対してホームページにおいて学校情報を積極的に提供することにより、本校が目指す教育への理解をより深め円滑な連携を図ることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	動物総合学科の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育kあん教
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

本校のホームページにおいて学校情報を提供
URL:<http://www.aaa.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物総合学科(ペテリナリーテクニシャンコース)平成29年度)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルで理解し、病的変化について学ぶ。	1通	40		○			○		○			
○			動物形態機能学Ⅱ	血液、免疫、呼吸器、循環器、感覚器、神経系、消化器、内分泌、生殖器について構造や機能を学ぶ。	1通	70		○			○			○		
○			動物形態機能学Ⅲ	イヌやネコの解剖学を学んだうえで、その他の動物についても解剖学、生理学について学ぶ。	2通	15		○			○				○	
○			動物病理学	病気のメカニズムと病理学的特徴を理解し、どのように病気が発生しどのように変化し回復していくのかを学ぶ。	2通	20		○			○				○	
○			動物疾病看護学Ⅰ	チーム獣医療の現場に必要な病名や診断名について学び、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に必要な知識を学ぶ。	1通	70		○			○			○		
○			動物疾病看護学Ⅱ	器官別熱疾患について検査や動物看護に必要な知識を学ぶ。	1・2通	80		○			○			○		
○			動物薬理学	薬の基本的性質、効能、副作用を学び薬理学の各論を理解する。	2通	30		○			○				○	
○			動物感染症学Ⅰ	主にイヌ・ネコに感染する微生物について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生機序・予防法を学ぶ。	1通	30		○			○			○		
○			動物感染症学Ⅱ	動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し基礎知識を習得する。	2通	30		○			○			○		
○			病原体・衛生管理学Ⅰ	病原体によって引き起こされる感染症の予防やワクチンについて理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。	1通	15		○			○			○		
○			病原体・衛生管理学Ⅱ	イヌ・ネコのワクネーションプログラムと寄生虫予防について学ぶ。	2通	15		○			○			○		
○			動物健康管理学Ⅰ	健全なイヌ・ネコに必要な日常ケアと適正飼育法を理解し、飼い主に説明指導ができるように学ぶ。	1通	10		○			○			○		

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物総合学科(ペテリナリーテクニシャンコース)平成29年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物健康管理学Ⅱ	ウェルネスプログラムを理解し、説明指導ができるよう学習する。	2通	15		○			○		○		
○			動物栄養学Ⅰ	動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、飼い主に適切な栄養相談及び指導を行う際の基礎知識を学ぶ。	1通	25				○	○		○		
○			動物栄養学Ⅱ	疾病と栄養学的管理の関係及び療法食について学ぶ。	1・2通	40		○			○		○		
○			動物医療関連法規Ⅰ	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。	1通	10				○	○		○		
○			動物医療関連法規Ⅱ	獣医療、公衆衛生法、環境関連の法律を学ぶ。	2通	20				○			○		
○			公衆衛生学Ⅰ	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、人獣共通感染症について学ぶ。	1通	25				○	○		○		
○			公衆衛生学Ⅱ	滅菌と消毒、動物防疫学について学ぶ。	2通	5		○			○		○		
○			動物繁殖学Ⅰ	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識をする。	1通	10		○			○		○		
○			動物繁殖学Ⅱ	正常な分娩、異常な分娩、母体看護、新生児の管理、遺伝性疾患について学ぶ。	2通	15		○			○		○		
○			動物人間関係学Ⅰ	動物が人間社会で果たしている役割や背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から理解する。	1通	10		○			○		○		○
○			動物人間関係学Ⅱ	ヒューマンアニマルボンドの考え方や動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育とは何か理解し、その活動を知る。	2通	10		○			○		○		
○			動物行動学Ⅰ	イヌやネコの種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1通	60		○			○		○		○

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物総合学科(ペテリナリーテクニシャンコース)平成29年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物行動学Ⅱ	伴侶動物の問題行動の治療に活かせるための応用知識を学ぶ。	1・2通	30		○			○		○		
○			動物福祉論	日本と欧米の歴史から動物観の違いを知りヒトと動物の関わり方の変遷を学ぶ。	2通	10		○			○		○		
○			飼養管理学Ⅰ	伴侶動物、産業動物、実験動物の歴史や品種、飼育管理法及びエキゾチック動物の生態、野生動物の種類と保全、動物園の展示動物について学ぶ。	1通	50		○			○		○		
○			飼養管理学Ⅱ	実験動物、産業動物、野生動物、展示動物について知識を深め専門知識として活躍できる能力を身に付ける。	2通	30		○			○		○		
○			動物看護学	ペット関連のあらゆる分野において獣医看護学、衛生学は必要不可欠。飼育管理上の健康トラブルからの諸病の予防、処置まで実践に役立つよう学ぶ。	2通	15		○			○		○		
○			臨床動物看護学	様々な機能障害をもつ動物のその機能障害について・その症状について理解してその傷害に適応する看護を学ぶ。	1・2通	90		○			○		○		
○			動物入院管理学	入院する動物に関わる看護の業務について基本的な事から術後の動物に関する看護までの範囲を学ぶ。	2通	30		○			○		○		
○			幼齢動物・高齢動物管理学	幼齢動物対応の哺育、排泄援助、また高齢動物の加齢による身体的特徴、認知障害、褥瘡予防、徘徊改善、夜鳴き改善等について学ぶ。	1・2通	30		○			○		○		
○			動物臨床検査学	臨床検査の基礎、血液検査、尿検査、便検査、糞便検査、細胞診・病理組織検査、遺伝子検査、心電図、X検査、超音波検査、内視鏡等を学ぶ。	1・2通	30		○			○		○		
○			救急救命対応Ⅰ	救急疾患の基礎知識と救急機材薬剤を学び、動物看護師として適切な救急救命措置について理解する。	1通	15		○			○		○		
○			救急救命対応Ⅱ	救命救急処置の手順や準備を理解する。	2通	10		○			○		○		
○			クライアントエデュケーション	疾病予防、避妊・去勢、健康管理、衛生管理者指導について学ぶ。	1・2通	40		○			○		○		

(文化教養専門課程動物総合学科(ベテリナリーテクニシャンコース)平成29年度)

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コミュニケーションⅠ	ペット業界が求めるコミュニケーション力や社会人の基本的なビジネスマナーについて学ぶ。	1通	30		○			○	○			
○			コミュニケーションⅡ	基礎的なコミュニケーションから受付業務、お客様対応におけるコミュニケーション、スタッフコミュニケーションについて実践的に学ぶ。	1・2通	35		○			○	○			
○			動物飼育実習Ⅰ	コンパニオンアニマルの適切な飼育法、ドッグトレーニングについて学ぶ。	1・2通	45				○	○	○			○
○			動物飼育実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用を動物飼育実習Ⅰで学んだ上で進める。	1・2通	80				○	○	○			○
○			動物看護実習Ⅰ	診療補助、輸液管理、主な処理法、シリンジの扱い、衛生管理、調剤などを学ぶ。	1・2通	150				○	○	○	○		○
○			動物看護実習Ⅱ	動物看護実習Ⅰで学んだことを基本に看護技術の実践と応用について実践的に学ぶ。	1・2通	150				○	○	○	○		○
○			動物臨床検査実習Ⅰ	検体処理、検査機器の取り扱い、血液検査、尿検査、細胞診、微生物学的検査、レントゲン、超音波等を学ぶ。	1・2通	80				○	○	○			
○			動物臨床検査実習Ⅱ	基礎を学んだ上で、手技に応用力をつけるため繰り返し学び、検査結果と関連性臓器について考察できるようにする。	2通	95				○	○	○			
○			外科動物看護実習Ⅰ	手術関連業務、術前術後の看護、麻酔・鎮痛、麻酔モニタリングなどについて学ぶ。	1・2通	45				○	○	○			
○			外科動物看護実習Ⅱ	実験動物、産業動物、野生動物、展示動物について知識を深め専門知識として活躍できる能力を身に付ける。	2通	45				○	○	○			
○			総合臨床実習	実際の動物病院の現場において実習を通して総合的に学ぶ。	2通	115				○	○				○
○			グルーマー学Ⅰ	ワクチネーション、シャンプー学、被毛のメカニズムなどグルーマーに必要な諸知識を学ぶ。	1・2通	30		○			○	○			

授業科目等の概要

(文化教養専門課程動物総合学科 (ペテリナリーテクニシャンコース) 平成29年度)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			美容実習Ⅱ	年間約30犬種に及ぶモデル犬を実習することができ、2年間を通し定期的に美容実習をすることにより1頭を確実に仕上げられることを目指す。	1・2通	440			○	○	○	○	○	
○			販売士学	動物取扱業者の職業倫理や動物販売に関する基礎知識と技術、動物の管理方法、健康管理、適正な繁殖方法を学び、家庭動物管理士資格取得を目指す。	1通	10	○		○		○			
合計						50科目	2400単位時間()						単位)	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則第9条に定める成績評価に基づいて、全科目の単位修得を卒業要件とする。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。